

1. 本園の教育目標

「たくましい子 思いやりのある子」

2. 本年度重点的に取組目標・計画

幼稚園教育要領の改訂を踏まえ、一人ひとりの幼児を大切にした質の高い教育の実践を目指す。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	幼児教育要領の改訂を踏まえ、遊びを通して総合的な指導を行う上で、幼児期に育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育みたい姿」をふまえた指導	B	・昨年同様、クラスのチームティーチング体制により個々の発達、発育状況に対応しながら、遊びからの学びや、生活習慣の習得に丁寧に関わり、個に応じた援助や発達を促す活動を提供することができた。 ・戸外遊びや園外活動、また、特に年長組は近隣小・中・高校との交流体験にて得る学びを重視したことで興味関心の幅が広がり、会話や絵画、工作など様々な方法で表現する姿が見られるようになった。 ・全園児参加の毎日の体操の時間や全身を動かす運動の時間を設け、友達を意識しながら楽しむことのできる遊びを多く取り入れた。 ・近隣小学校の先生方に協力していただき「架け橋プログラム」の作成を行った。 ・望ましい言葉使いの推進や挨拶の習慣を今後も継続して指導していきたい。
2	遊びを通して総合的な指導を行う中での幼児に適した環境整備と安全対策	A	・感染症対策として、CO2メーターを各クラスに設置し、30分に1回の換気の実施した。 ・園庭や「わんぱく森」の安全点検を実施。また、年齢に応じた遊具や玩具設定や使用方法を活動前に園児と確認し合い安全に遊べるよう周知した。 ・月1回安全会議を実施し、園内外の危険箇所の把握と改善を行った。特に今年度は、チェックリストを作成し砂場の消毒を徹底した。
3	一人ひとりの幼児の発達の特性を理解し、教職員間で周知と発達に即した指導	B	・登降園時や参観日、面談などで保護者と園児の情報を共有しながらこども一人ひとりの発育・発達状況に合わせた関わりをもつことができた。 ・職員会議にて個々の発育状況を職員間で情報を共有し合い、職員全体で把握し、個々の育ちを支え合う体制ができた。また、個別サポートが必要な園児に対し、保護者との面談や関係機関と連携を取り、情報を共有し合い支援の充実を図っている。

評価(A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理 由
B	3つの評価項目について重点的に取り組んだ結果、園外での交流体験や保護者との行事等を通し、こども達の興味関心や意欲が得られ質の高い学びの提供ができたと思う。特に今年度は3歳児健診前面談を導入するなどし、一人一人の発達について保護者と教育・発育相談の充実に努めることができた。

5. 今後の課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	遊びを通しての総合的な指導	・不思議さを感じる活動に、こどもが考え工夫したくなるような遊びの環境作りの工夫や、事例研究を通し、分析し職員間の指導力向上に努める。
2	意欲的に身体を動かして遊ぶ環境構成	・ホールや園庭で積極的に身体を動かす環境作りをするなど、多様な遊びを通し身体面での「たくましい子」に繋がる活動を取り入れこどもの体力の基礎を培う。
3	個に応じた支援	・特別な配慮を必要とする園児に対し家庭や関係機関と連携し、個々の発達段階に合った指導や援助のため、個別支援計画などの資料を作成する。

6. 学校関係者評価委員会の評価

認定こども園として1歳から入園するこども達にとって園は生活の一部となっている。いつでも園内の雰囲気明るく活気に満ち、こども達は意欲的に生活している。一人ひとりのこどもの育ちに向き合う職員の努力がこども達に伝わっていると感じる。3人の孫が入園したが個々に応じた指導に質の高さを感じる。メール配信やホームページの内容の充実等ネットを活用し教育活動の理解を進めている。あいさつができない子がいる。各々の家庭環境の違いもあるが園と家庭で継続して指導していただきたい。遊びを通してこども達の学びが促され園の活動がますます充実していくことを期待する。